

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	ヒトエグサ
対象海域	八代海

ヒトエグサ養殖の現地指導について

天草広域本部水産課・金棒 千明

【背景・目的】

天草地区では、ヒトエグサ養殖が盛んで、上天草市龍ヶ岳町から天草市牛深町地先にかけて約 15 経営体がヒトエグサ養殖を行っている。天草地区のヒトエグサ養殖は、秋に天然採苗を行うが、採苗時の養殖網の管理が長年の経験のみで行われていること、また、良質な天然の種場を有する地先のみでの生産に留まっていたことから、熊本県水産研究センターでは、ヒトエグサの人工採苗網の開発及び実用化に向けた研究が行われている。

そこで当水産課では、人工採苗網の有用性の評価及び養殖技術普及を目的として、令和 3 年（2021 年）に新規加入した牛深地先の養殖漁業者を対象とした養殖技術指導を行った。

【普及の内容・特徴】

人工採苗網の設置

10 月に人工採苗網 174 枚の設置が行われた。網は地盤高 180～200cm に固定され、水深棒を用いた網の高さの管理方法や、スマートフォンの潮見表アプリを用いた干出時間管理方法についての指導を行った。

育苗、経過観察

12 月の指導では、網の張り方が弱く、弛んでしまった部分で干出不足によるドタグサレ病が確認されたため、網を張る際の注意点と網の高さについて指導を行った。また、網の高さが他の網より高くなってしまった箇所では藻体の白化が確認されたため、12 月～2 月の気温が低い時期の網の高さについて助言・指導を行った。その後、1 月上旬の調査時点で葉長約 1 cm となり、順調に生長している様子が確認された。

1 月の寒波前には、凍結による被害を軽減するため、網を下げるよう指導を行った。寒波後の指導では、一部の網で凍結によるヒトエグサ藻体の白化及び、波浪による芽流れが確認されたが、被害は一部に抑えることができた。アマノリ類の混入が確認されたが、ヒトエグサは順調に生育し、天草管内では新和地区の次に早い 1 月下旬に摘採を開始することができた。

【成果・活用】

4 月下旬まで摘採が行われ、174 枚の人工採苗網から約 200kg（乾燥重量）のヒトエグサが収穫された。人工採苗網については、前年度より、雑藻の混入が少なく、洗浄及び選別作業の時間が短縮されているとの評価を得た。

今後も指導を継続し、天草管内のヒトエグサ生産の安定化及び更なる向上を図る。

【達成度自己評価】

4：目標はほぼ達成できた（100%）



図1 水深棒設置の様子



図2 ドタグサレ病が確認された部分



図3 ヒトエグサの白化の様子



図4 1月時点のヒトエグサの様子



図5 洗浄作業の様子